

# 2017年11月環境活動報告

## 「江戸時代のエコ」 現代とは違った江戸の生活

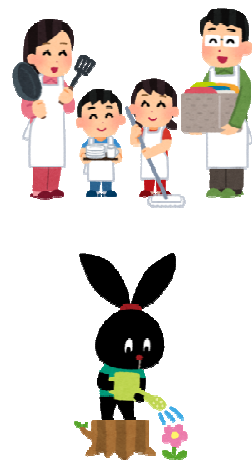
### ■ 着物のおしゃれとリサイクル



フリースが2000円で買えて、服が至る所で売られている現在と違い、布が貴重だった江戸時代。新品の着物は一生に一度あるかどうかというものでした。古着を着ているのが当たり前でした。1723年の記録によると古着屋は組合メンバーだけで「1182軒」という数！別の布地を襟や裏地に使用したり、帯の結び方を変えるなど限られた中で、おしゃれを楽しんでいました。

着古した着物は子供用に仕立て直したりして、更に生地が傷むと、下着や風呂敷、雑巾などに活用していました。

### ■ 掃除と洗濯



現代では掃除機や化学モップや用途に応じた専用洗剤を使っていますが、江戸時代の掃除の基本は「はたく・はく・ふく」。古い布で作ったはたきで埃を払い、竹や草で出来たほうきで掃き、ゴミはちりとりで集めて、煮炊きの時にかまどで燃やしました。拭き掃除は古い手ぬぐいなどを縫って作った雑巾で水拭きをしました。

洗濯はたらいに水をくみ、木の灰を水に溶かした上澄み液洗剤の代わりに使って汚れを落としていました。洗濯後の水は植木や植物に撒いていました。

かまどで燃やした後に残った灰は田畑の肥料になり、トイレの排泄物は農村で肥料にする為に農家や下肥業者に買い取られていました。(ここだけの話ですが、排泄物は身分が高いほど高く買い取られました。理由は、それだけ良いものを食べているので良い肥料になるからです。)

### ■ 修理・再生職人



古い鍋や釜に穴が開いたらどうしますか？捨てて新しい物を買いますか？100円ショップで安く買いますか？江戸時代では気軽に物を買えなかったのが、専門の修理業者がいました。

**【鑄かけ】**  
金属専門修理業者です。古い鍋や釜に穴があいてしまった時などに、鑄かけ屋に修理してもらっていました。昭和30年代までは東京にもいたそうです。

**【瀬戸物の焼き継ぎ】**  
現代では陶器を割ったら捨てるか、接着剤を使用するかと思いますが、江戸時代では、専門の修理職人がいました。初期は「漆」を用いて接着していましたが、18世紀末に「白玉粉」で接着し加熱する焼き継ぎ方が発明されてからは、安価に修理が行われるようになりました。

**【研ぎ屋】**  
現在でも残っている職業です。刃物を使う職人は、研ぐのも仕事の内でした。大工でも、自分の刃物の手入れを他人には任せません。素人では、手入れをするとより切れ味が悪くなるのが有る為に、専門の職人に頼んでいました。

## 11月エコアクション活動実績

	内容	目標	11月実績	達成度合	判定
節水大臣	使用量前年比1%削減	8.223 m <sup>3</sup> /月	m <sup>3</sup>	#DIV/0!	
節電大臣	使用量前年同月比1%削減	1,215 kwh/月	1,577 kwh	77.0%	未達成
グリーン購入大臣	グリーン購入品推進50%以上	50 %/月	49.80 %	100.4%	未達成
ごみ処理大臣	ゴミ総排出量削減 目標49.77 k g 以下	49.77 Kg/月	100.00 Kg	49.8%	未達成
製品サービス大臣	省エネ省資源化の提案件数10件	10 件/月	0 件	#DIV/0!	未達成